

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2373700281
法人名	有限会社 ダイズ
事業所名	グループホーム だいず
訪問調査日	平成19年11月2日
評価確定日	平成19年12月7日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2373700281		
法人名	有限会社 ダイズ		
事業所名	グループホーム だいでず		
所在地	一宮市開明字葎野29番地2 (電話) 0586-64-0008		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年11月2日	評価確定日	平成19年12月7日

## 【情報提供票より】(平成19年10月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	35 人	常勤	21人, 非常勤 14人, 常勤換算 6.9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	18,500 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(平成19年10月16日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名	
要介護1	2名	要介護2	2名			
要介護3	8名	要介護4	3名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	81 歳	最低	59 歳	最高	93 歳
協力医療機関名	井上内科クリニック・三條歯科クリニック					

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木曽川のもたらず肥沃な濃尾平野中流域の田園地帯にグループホームは建っている。入居者が“健康に(ために)”暮らせるようにと願いをこめて『だいでず』と命名された。食材はホームの農園やオーナーの畑で採れた、木酢液を使用した無農薬野菜を使用しており、食材の点からも入居者の健康に配慮されている。日常の外出に力を入れており、特に散歩は個別の希望に対応し、雨が降っても毎日出かけたい入居者の要望にも対応している。よく行く喫茶店でのバイオリン演奏や声楽、フラメンコなどのイベントに積極的に出かけている。落語や漫談、マジックなどのボランティアにより、入居者の五感に働きかける取り組みに励んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	市町村との連携について、よく市役所に出かけさまざまな相談や指導を受けたりしている。運営推進会議にも市職員・民生委員の参加があり徐々に連携がとれてきている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は日常のケアの見直しや振り返りの好機と捉え、職員はできていると思っていたことが、自己評価により改善の余地があると教えられた。共に明日からのケアに活かせる良い機会になったと捉えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	代表、管理者、計画作成担当者、入居者、家族、地域代表、市職員、民生委員がメンバーとなり、活発に意見交換が行われている。ホームでのボランティアや地域交流、勉強会、研修会などの報告がされ、家族からも意見が出されている。今回の外部評価についても同会議で報告している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議に家族が加わっており、ホームの家族会はないが、家族の意見表出も積極的に行われている。訪問時には必ずホームから現状が報告され、家族から要望を聞きだすようにしている。また、意見箱を設け、自由に記入できるようにしているがほとんどの家族は訪問時に直接職員に要望を伝えており、利用はない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームで採れた野菜を近所にお裾分けしたり、差し入れを頂いたり良好な関係を維持している。ホーム主催の『だいでず祭り』には近所の方を招待し、楽しんでもらっている。また、地域老人会で介護施設の説明や利用方法の講習も行っている。町内会にも加入し、資源回収等に協力している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者に安らぎと希望を与え、ケアを通じて共感できる事を追求し、相互信頼の確立を目指す」を理念とし、一人ひとりの希望に沿った支援を志している。理念は至る所に掲載され、職員への浸透が図られている。		防災面で地域住民に援助を依頼する等、地域に溶け込む努力を続けている。地域密着型サービスとして、その志を理念の中にも反映し、より地域に根ざしたホームを目指していきたいことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やその他、至る所に掲示し、いつも職員の目に触れるようにしている。ミーティングや申し送り時に職員間で確認している。理念を胸に刻み、入居者に対しては大きな声で分かりやすく、尊敬の念を込めて、決して友達のように接することがないよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内の情報も回覧板で得ている。地域老人会でグループホームや介護保険の説明、活用方法を講演している。また、防災訓練も地域の方にも協力してもらい実施している。菜園で採れた野菜を近所にお裾分けしたり、差し入れを頂いたりして良好な関係である。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価を普段のケアの見直しや振り返りの好機と捉えている。職員は自己評価を通じ、文意が不明な点は管理者に確認したり、他の職員に聞いたりして知識の再確認になった。外部との交流については、職員で保育園への訪問を話し合い、管理者に提案した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは代表、管理者、計画作成担当者、地域代表、市職員、民生委員、入居者、家族であり、2カ月に1度開催している。ボランティアや勉強会、研修実施状況、地域交流事業などの報告をし、参加者からもさまざまな意見が出されている。今回の外部評価についても10月の同会議で報告している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>何事も市の福祉担当者に相談し、ホームの行事にも職員を招待している。運営推進会議のメンバーにも加わってもらい、会議以外にも何かあればすぐに市役所に出向き、相談や情報の収集をしている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求書の冒頭に、各入居者の最近の写真と共に、現在の状況や出来事と管理者のコメントを添えている。家族にとっては、入居者本人の事だけが細かく報告されており、好評であることからホーム便りの発行は考えていない。家族はよくホームを訪問しており、その都度近況を伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設け、自由に記入できるようにしているが、ほとんどの家族は訪問時に直接職員に要望を伝えており、利用はない。家族会はないが運営推進会議に家族も参加しているので、その場で意見を出される方が多い。運営推進会議には市職員も参加するので家族から市職員への質問も多い。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定期異動はない。新人職員が入った場合は、入居者に馴染んでもらえるよう、職員によく会話するよう指示をし、現状1週間程で馴染んでいる。会話によりお互いに心を開き、意思の疎通が図れるとの管理者の信念による指針が徹底されている。個別の担当者は設けず、その日の日勤者が入居者を受け持っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者は3カ月以内に新人研修を行っている。研修計画は特に定めていないが、現場での指導が一番効果的なため、現場での教育を重視している。外部研修も奨励しており、パート職員も参加できる体制である。研修費用は法人が負担し、1日がかりの研修は有給扱いとしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会、一宮市サービス事業者連絡会に加盟している。両者とも3カ月に1度くらい交流会が実施されている。会では、研修や情報の交換、介護の意見交換が行われ、大変参考になっている。これらの会には管理職だけでなく一般職員も参加している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族に協力してもらい、本人のペースに合わせゆっくり馴染めるように支援している。ほとんどが居宅サービスからの移行者でケアマネジャーの紹介でホームを選ばれた方が多い。入院先から入居される場合は、病室を訪れ顔馴染みになるよう努力している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材を刻んでもらったり、皿拭き、下膳、洗濯物干し、たたみ、モップかけ、シーツ交換、トイレ掃除など手伝ってもらっている。近所の銭湯に一緒に出かけた時に、管理者は入居者に背中を流してもらい涙が出そうになった場面や、忙しくしているといつも「大丈夫？」と優しく労ってくれ、疲れも吹き飛ばすことがあり、共に支え合い助け合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>昔の事を思い出し、「兄弟の所へ行きたい」と外出する入居者がおり、原因も行き先も分かっていることから、職員は付添い、本人の気がすむまで散歩に付き合うようにしている。夜間に人恋しくなり夜勤職員に本音をもらす事も多いので、夜勤職員の声は本音を知る上で貴重である。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常気づいたことは介護日誌とは別に申し送りノートに記入し、夜勤者は日勤者の、日勤者は夜勤者の記載を頭に入れ勤務に就いている。毎日の積み重ねと訪問時の家族への現状報告や要望の聞き出しを基に、職員の感想も取り入れ介護計画は立てられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3カ月（短期目標）、6カ月（長期目標）を定期的に見直している。日々申し送りノートに個別の様子を記載し、職員間で共有している。状態に変化があった時は家族に連絡を取り、話し合いを行い介護計画の見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の通院付添いが不可能な時は、職員が通院送迎の支援を行っている。家族が入居者と外食を楽しむ時は、準備等に柔軟な対応を行っていることが家族アンケートの結果からうかがえる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1~2回提携医の訪問診療を受け、24時間いつでも相談できる体制が整っている。家族がかかりつけ医に通院介助する時は、情報提供を行ない受診結果に関する情報の共有もできている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルケアのあり方については、提携医や家族、職員で話し合い、手順や方法など何度も確認が行われている。急変時の対応については、協力医療機関の看護師より指導を受け、全職員のサービス内容を統一している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時に職員は個人情報に関して誓約書を提出し、書類などはシュレッターにかけ、個人情報の漏洩防止の徹底を図っている。職員は外部に対し、プライバシーに関することを話さない事を基本としている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	俳句が趣味の入居者の散歩に、職員が1時間、個別に支援を行っている。食事・おやつ時間は決まっているが、その他は入居者のペースにそって、見守りながら柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は手作りを基本としている。入居者の嗜好を取り入れているため、入居者全員が同じ献立でない場合もある。食事は入居者と職員が同じテーブルを囲んで摂っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂の入り口には温泉マークののれんがかけてある。入浴は週6回(1人約20分程度)希望する時間に入浴してもらえるよう支援している。足浴は体調を見ながら毎日楽しんでもらっている。入浴に関しては、体調不良など予想される場合に、シャワー浴や清拭などへ変更することへの同意書を入居時に家族から頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除やモップがけ、拭き掃除、野菜洗い、食器洗い、食器拭き、洗濯物干し、たたみなど、おのおの得意分野で力を発揮してもらっている。年1回、一泊旅行と日帰り旅行を1年おきに行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の喫茶店に出かけ、お茶を楽しんでいる。気分転換やストレスの発散に散歩に出かけたりしている。近くの公園に出かけ、ラジオ体操を行い、健康管理に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はいつでもオープンになっている。夜8時から翌朝8時までは防犯のため施錠している。職員は常に入居者の挙動を確認し、職員同士声をかけ合い事前にエスケープを防いでいる。また、近所の方も入居者の顔を覚えてくれており、すぐに連絡をしてくれる。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や救命訓練を定期的に行っている。設備点検は年3～4回、設備会社と提携し実施している。11月17日に行われる地域の防災訓練に、ホームも参加を予定している。非常用飲料・備品はグループホーム以外の場所に保管している。		非常用飲料や備品等は、別の場所に保管されていることから、ホーム内に準備ができるよう検討されることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1,000cc以上摂取している。代表の知人の栄養士に専門的なアドバイスを頂いており、日頃から薄味に気をつけて調理している。一人ひとりの摂取量や内容は食事チェック表に記入し、食事摂取量の少ない方には代替食品を用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には折り紙教室で習った鶴、テレビの上には手作りのカレンダー、各テーブルの上には花が飾られており、和みの雰囲気づくりに配慮や工夫がされている。フローリングのフロアに畳が埋め込んであり、入居者の寛ぎの場所になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や座卓、使い慣れた時計などが持ち込まれており、安心して過ごせるようになっている。フロアに空気洗浄機が設置され、毎朝全ての窓を開放し、換気に努めている。中庭に長椅子や一人掛けの椅子を配置し、夕涼みやおやつを楽しんでいる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。